

大学院「サステナビリティ学教育プログラム」において、茨城町にて国内実践教育演習（2015年9月13日～15日）、ひぬま環境フォーラムでの発表（2015年11月28日）を行いました。

茨城町において「国内実践教育演習」（2単位）のフィールドワークを2015年9月13日（日）から15日（火）までの3日間実施しました。

茨城町と茨城大学は人文学部が、2013年1月に地域連携協定を締結し、さらに2014年度より本学の戦略的地域連携プロジェクトとなっています。本演習は、これら地域連携の一環として、学内の大学院4研究科すべてから参加学生を募り、11名の大学院生が参加しました。県央に位置する茨城町の豊かな自然に触れながらの演習となりました。

演習1日目は、茨城町で活動する「NPO 環~WA」にご協力いただき、自然体験型フィールド実習を行いました。茨城町小幡の山林にて、間伐体験、孟宗竹の利活用、小型バイオガスストーブと木質ペレットづくり、などを体験しました。その後、涸沼での伝統漁体験（笹漁と竹筒漁）と枝豆の収穫を行い、町の方のご自宅で民泊体験を行いました。

2日目は、早朝の涸沼でのいかだ体験後、専門を異にする学生がそれぞれ、涸沼のラムサール条約登録後の「アンケート調査班」、「涸沼利活用班」の2班に分かれ、それぞれに茨城町役場の方と現地を回り、行政、専門家、漁業関係者、住民の方などにインタビューを行いました。

3日目は、2日目のフィールドワークの成果を発表しました。発表会には、茨城町町長や町の職員の方に参加して頂き、今後の調査に対する助言や激励を受けました。

3日間のフィールドワーク後も活動は続き、「アンケート調査班」は実際に住民の方へのアンケート調査を行い(1000名の方に配付し、320名の方より回答を頂きました)、「涸沼利活用班」も家族向けの涸沼ガイドマップの原案を作成しました。それぞれのグループの成果は、11月28日（土）に開催された「ひぬま環境フォーラム」で発表しました。

昨年度より始まった茨城町における演習も2年目を迎え、より濃い活動となっています。今後は、この2年分の成果をまとめ、来年度に向けた継続的な取り組みとしていきたいと思っております。

◆孟宗竹の竹割体験



◆涸沼でのいかだ体験



◆枝豆収穫体験



◆発表に向けての打ち合わせ



◆伝統漁の体験



◆ひぬま環境フォーラムでの発表

